資料7

# 嬉野市地域公共交通計画 期間満了に伴う 新計画の策定について

## ・嬉野市地域公共交通計画策定に向けた基本方針

令和8年6月26日(金)

嬉野市

# 1 業務実施方針

## 業務に関する認識

**① 嬉野市を取り巻く公共交通環境の変化と新たな課題 ＝ 新幹線開業による“恩恵”と蓄積された“歪み”の顕在化**

- 西九州新幹線の開業により、嬉野市は広域からのアクセス性が大きく向上し、観光客の来訪は増加傾向にある
- 一方で、路線バスの相次ぐ廃線や減便により、公共交通による市内移動手段は縮小し、都度、代替交通を運行する現状
- 乗合タクシー等により、住民の移動手段は一定程度補完されているものの、予約制・不定期運行が多く、経路検索等では表示されにくいため、観光客にとっては存在自体が認知されにくい
- それぞれの交通モードが連携できておらず、「市内に来くることができても、市中では移動しにくい」という課題が生じている

**② 様々な分野が重なり合う生活課題の顕在化 ＝ 分野横断による移動支援が必要**

- 人口減少・高齢化の進行により、公共交通の担い手不足が深刻化する一方、通勤・通学、通院、買い物、観光など、多様な移動目的により地域内の移動需要は複雑化・小規模化し、大量輸送手段での効率性が低下
- 公共交通単独では対応が難しく、教育・買い物・介護・医療・観光等の移動の目的施設との連携が不可欠
- 地域内に存在する車両・人材・施設等の地域資源を組み合わせ、フル活用する必要がある

**③ 必ずしも市内に完結しない生活圏・観光圏を前提とした公共交通の課題 ＝ 単独自治体視点では、将来を見誤るおそれ**

- 嬉野市の生活行動は、身近な生活圏としての市内移動のほか、鹿島市・武雄市等の周辺自治体にも広がっている
- 広域的な生活圏・観光圏に対して、公共交通による移動の選択肢や連携は十分とは言えず、車に依存する要因となっている
- 行財政運営の効率化・移動円滑化の視点でも周辺自治体との連携が必須と考えられる

**本業務の位置づけ**

**現状の延長ではなく主体的に選び直す計画の策定と持続可能な運用支援**

- ➢ 「後追い型」から、将来を見据えた「バックキャスティング」への対応への転換を図る
- ➢ データに基づき、現在の公共交通運営にとらわれず、将来を見越した公共交通を選択
- ➢ 計画策定後の「運用」を重視した、データ分析プラットフォームの構築や隣接自治体との連携、柔軟かつ実行性のある運営体制の構築により、有言実行の計画を策定する

# 1 業務実施方針

## 業務実施方針

### ①環境変化を的確に捉え、将来に備える計画づくり

西九州新幹線、コロナ禍、路線廃止・代替交通導入といった、嬉野市を取り巻く環境変化により、人の動きや公共交通の使われ方は大きく変化してきた。単一時点の状況だけで判断するのではなく、平常時・観光期・変遷期を捉えた網羅的なデータ分析と評価を行うことで、将来の不確実性にも柔軟に対応できる計画づくりを目指す。

### ②データ分析に基づく、選ばれる公共交通体系づくり

人口減少や公共交通離れの進行、財政負担の増加を背景に、すべての交通サービスを従来どおり維持することは困難

である。本業務では、「どの移動を守るべきか」「どの移動は見直すべきか」を明確にすることを目的に、データを根拠とした路線・サービスの取捨選択を行い、限られた資源で続けられる公共交通のあり方を整理する。

### ③他分野・他地域との連携による「嬉野公共交通ベストミックス」案の検討

公共交通単独では解決が難しい課題に対しては、教育・福祉・医療・観光分野や地域主体の移動支援、周辺自治体との連携も視野に入れ、相互に支え合う形での交通の維持を目指す。本業務では、嬉野市の特性を踏まえた複数の手段を組み合わせた「ベストミックス」を検討し、実効性と持続性を両立した公共交通の構築につなげる。

## 業務実施手法

### ①データとアンケートを組み合わせた超実情把握

- 人流データ、ICカードデータ等を用いて、双方の移動の流れや時間帯別特性を把握するとともに、データでは把握しきれない実態については、住民・来訪者・利用者アンケート等を実施し網羅的に実情を把握する
- 当社保有データもフル活用し、公共交通需要を炙り出す

### ②移動手段ごとの機能整理と役割の明確化

- 鉄道、路線バス、乗合タクシー、福祉バス等について、利用属性・移動目的・時間帯の違いを整理
- 市内移動・広域移動、生活移動・観光移動といった視点から、各移動手段が担う役割を把握
- 重複や不足が生じている路線を可視化し、限られた人材・財源の中での役割を整理

### ③実行可能性を重視した施策の整理

- 分析・調査結果や他地域での豊富な実績をもとに、実行可能性を重視した施策を整理
- 各施策について、実施主体、実施時期、見込まれる効果を整理し、段階的な導入を想定
- 計画策定後も市職員が主体的に見直しを行えるよう、評価指標や見直し方針を整理し、継続的な検証・改善を前提とした伴走支援の枠組みを構築

## 2 計画策定の流れ

**(1)概況整理**
- ①関連計画等の整理
- ②基礎データの整理 、予測

**（２）現状分析・課題整理**
- ①現計画の検証・評価
- ③地域内公共交通の整理および現状分析
- ②各種調査の実施
- ④公共交通に関する課題の整理

**（３）計画の基本方針決定**
- ①地域公共交通の将来像と基本方針の検討

**（４）計画の目標の検討**
- ①目標達成に向けた施策及び事業の検討

**（５）計画書の作成**
- ①嬉野市地域公共交通計画の策定

嬉野市地域公共交通活性化協議会

# 3 嬉野市の現況整理

## ① 上位関連計画との関連

- 全ての住民と観光客が利用しやすく市内外を円滑に移動できる公共交通の実現に向け、各計画の整合性確保
- **まちづくり・観光・施設・防災等、総合的な視点での公共交通の位置づけ**の確認

| 分野 | 計画 | 地域公共交通計画への反映の視点 |
|---|---|---|
| 総合 | **第2次嬉野市総合計画**<br>※第3次嬉野市総合計画作成中 | ・住民や観光客（新幹線来訪者）のための公共交通ネットワークの充実<br>・人口減少社会においても将来にわたり持続可能な公共交通の維持<br>・地域に暮らし続けるための最低限の移動手段の確保 |
| 総合 | **第2期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略** | ・高齢者・児童等の生活に必要な、地域の実情に沿った地域公共交通の維持・確保<br>・新幹線駅から温泉街・市内外各地を結ぶ次世代モビリティを含む二次交通の充実 |
| まちづくり | **嬉野市都市計画マスタープラン** | ・集約型都市構造を前提とした公共交通を軸とするまちづくり<br>・地域の玄関口となる交通結節点機能の強化<br>・交通拠点を中心とした地域内外を結ぶ交通体系の構築 |
| まちづくり | **嬉野市立地適正化計画** | ・居住者や観光客が円滑に移動できる公共交通ネットワークの構築と交通空白地の解消<br>・乗継利便性やバリアフリー化の推進による利便性向上と公共交通利用の促進 |
| 観光 | **嬉野市観光戦略** | ・新幹線駅や高速バス停留所から温泉街までアクセス改善<br>・新幹線駅を中心とした周辺地域と連携した観光地域づくり |
| 福祉 | **第3次嬉野市地域福祉計画** | ・高齢者・要支援者等の交通弱者の移動手段確保による社会参加の促進<br>・利用者の意見を反映した乗合タクシー等地域公共交通の利便性向上 |

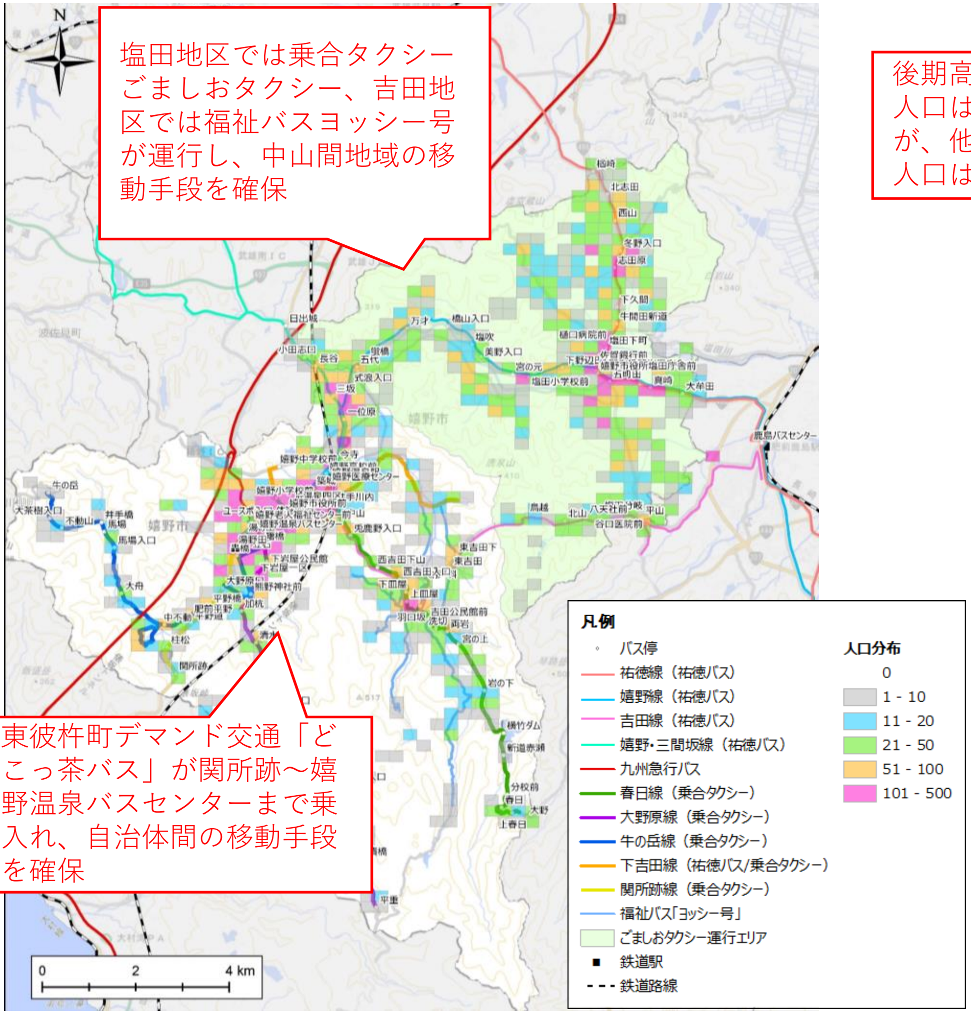
↓

**嬉野市地域公共交通計画**

# 3 嬉野市の現況整理

## ②嬉野市の地域特性と交通を取り巻く状況

- GISを活用し、人口特性（現在/将来の人口分布、高齢化率、人口増減）や、地形、従業者分布、主要生活拠点施設の分布を重ね合わせて**地域状況を見やすく可視化**

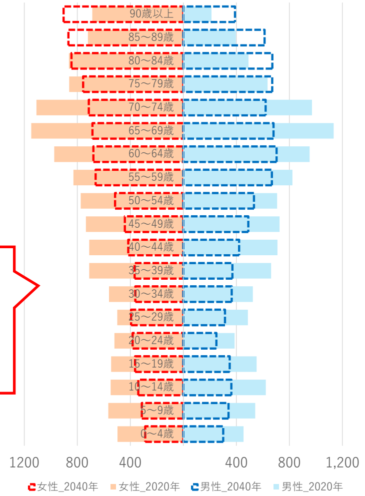



塩田地区では乗合タクシーごましおタクシー、吉田地区では福祉バスヨッシー号が運行し、中山間地域の移動手段を確保

東彼杵町デマンド交通「どこっ茶バス」が関所跡～嬉野温泉バスセンターまで乗入れ、自治体間の移動手段を確保

後期高齢者の人口は増えるが、他世代の人口は減少

### ■人口ピラミッド




※国勢調査（2020年）をもとにした将来推計人口

### ■観光客数推移

出典：嬉野市観光商工課

コロナ禍を経て観光客数はコロナ前と比べて増加傾向

## 近年の状況変化

| | 変化の要因 | ▶ | 顕在化した変化 |
|---|---|---|---|
| 公共交通 | 運転手不足の進行 | → | 長距離路線網の廃止・減便 |
| 公共交通 | 経営状況の悪化 | → | タクシーの供給力不足 |
| 公共交通 | 市の公共交通対策実施 | → | 枝線交通の再編・充実 |
| 公共交通 | 西九州新幹線の開業 | → | 幹線交通の強化 |
| 地域状況 | 高齢化の進行 | → | 移動弱者の増加（枝線利用増） |
| 地域状況 | 観光客数の増加 | → | コロナ禍を経て宿泊客数の増 |
| 地域状況 | 市のDX化施策 | → | DX施策による自動運転実証 |

# 4 調査方法と想定される課題

- 嬉野市の公共交通の想定される課題から、それぞれの現状を市民・観光客・事業者の声と客観的なデータの双方から把握し、得られたデータから、課題の要因と今後の方針をクロスSWOT分析にて評価する。

| | 調査手法 | 想定される現状・課題 | 実施内容 | 実績 |
|---|---|---|---|---|
| データ整理等 | 人流データ分析 | 新幹線駅・ICを起点とした人の流れ／観光客が公共交通を利用せず通過している実態／時間帯別の移動集中 | 携帯電話位置情報に基づく人流データKLA（KDDI Location Analyzer）とODウォッチャーを併用し、分析 | 沖縄県うるま市　石川IC周辺交流拠点形成基本計画策定業務　他 |
| | ICカードデータ分析 | 路線バスの利用状況／乗継のしにくさ／路線・時間帯ごとの使われ方／公共交通網と移動方面との不一致 | 交通事業者へICカードデータの提供を依頼し分析 | 大分市地域公共交通利便増進実施計画策定検討業務委託　他 |
| | GTFSデータ分析 | | 路線バスの運行状況を地図上に可視化 | |
| | 過年度自動運転実証実験結果分析 | 実証実験の利用者が限定／生活交通としての定着に課題／地域受容性を踏まえた検討が必要 | 過年度自動運転利用者の属性ごとの周遊ルートを分析し、移動の傾向を把握 | 嬉野市未来技術地域実装事業　他 |
| 住民・観光客意見 | 市民アンケート（LINE・市報） | 居住地による公共交通サービス水準の差／日常生活における移動のしにくさ／将来の移動への不安 | 嬉野市報および嬉野市公式LINEを用いてwebアンケートを実施し移動実態、課題を調査 | 鹿児島県地域公共交通計画策定業務　他 |
| | 高校生アンケート | 通学時の移動実態／実際の運行と移動ニーズの不一致／待合環境 | 高校を通じ学生の公共交通利用状況を調査（web・紙面併用） | 大分県東部圏地域公共交通計画策定業務　他 |
| | 公共交通利用者アンケート | 交通空白地域における移動実態／デマンド交通の使われ方／改善要望 | 事業者を通して路線バスおよび乗合タクシー車内へのQR設置を依頼し、webアンケート調査 | 鹿児島県地域公共交通計画策定業務　他 |
| | 観光客アンケート | 観光地間の移動手段／公共交通を選ばない理由／周遊のしにくさ | 旅館組合を通して宿泊施設へ各部屋、ロビー等へのQR設置を依頼し、webアンケート調査 | 嬉野市未来技術地域実装事業　他 |
| | 交通結節点利用者調査 | 乗り継ぎができないダイヤ／待合環境・情報提供の課題 | 嬉野温泉駅、嬉野IC、バスセンターにて平休日１日、対面アンケート調査を実施し二次交通の課題を把握 | 由布市地域公共交通再編実施計画策定支援業務 |
| 関係者意見 | 市内民生委員アンケート | 日常生活における移動のしにくさ／将来の移動への不安 | アンケートシートを配布し地域の移動環境や移動にお困りの方の実態を把握 | 萩市地域公共交通計画策定支援業務　他 |
| | 交通事業者 | 運行上の制約／担い手不足／広 | | 大分県地域公共交通計 |

# 5 嬉野市の公共交通に関する実態、ニーズ把握調査（データ整理）

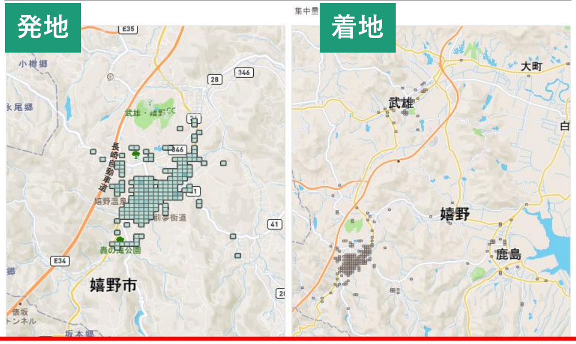
## ①人流データ分析による来訪者・住民の移動傾向や滞在特性の把握

- 嬉野市における住民・観光客の移動傾向は、**コロナ禍や2023年9月の新幹線開業といった環境変化を契機に、段階的に変化**してきた
- こうしたターニングポイントにおける変化と平常時の傾向を合わせて読み解き、将来の移動需要を見通すためには、**平常時の単一月の人流データのみでは公共交通利用の実態を網羅的に把握することは困難**
- 本業務では2つのデータを**併用し、移動傾向と滞在特性を多面的に把握**することで、移動傾向と滞在特性を多面的に整理し、将来の移動需要を見通す

コロナ禍や新幹線開業といったターニングポイント前後の移動構造の変化を把

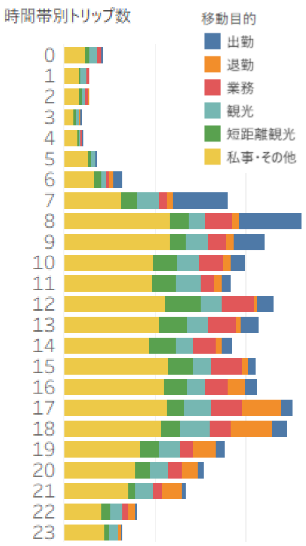
### ODウォッチャー※を用いた分析例

平常期1か月の中での平日・休日の移動傾向や滞在特性の違いを分析

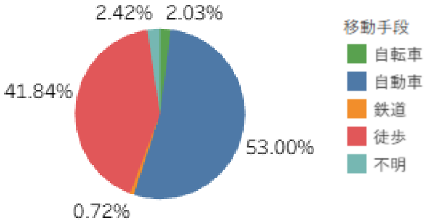



嬉野温泉街から出発した人は自動車を使った移動が過半数を占め、温泉街内、鹿島市、武雄市へ移動している

時間帯/手段別トリップ数




移動手段割合




※（株）ブログウォッチャー提供「ODウォッチャー」にて2024年10月を対象に分析

### KLAを用いた分析例

コロナ禍や新幹線開業といったターニングポイント前後の移動構造の変化を把握

**■前後立ち寄り分析（嬉野温泉駅）**

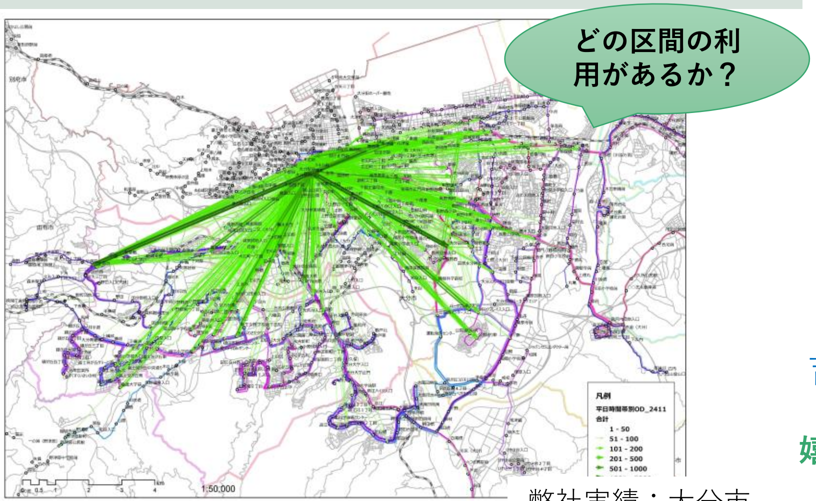
嬉野温泉駅へ訪れる人は前後に長崎市や佐賀市に立ち寄っている

# 5 嬉野市の公共交通に関する実態、ニーズ把握調査（データ整理）

## ②ICカード・GTFSデータによる公共交通利用実態把握

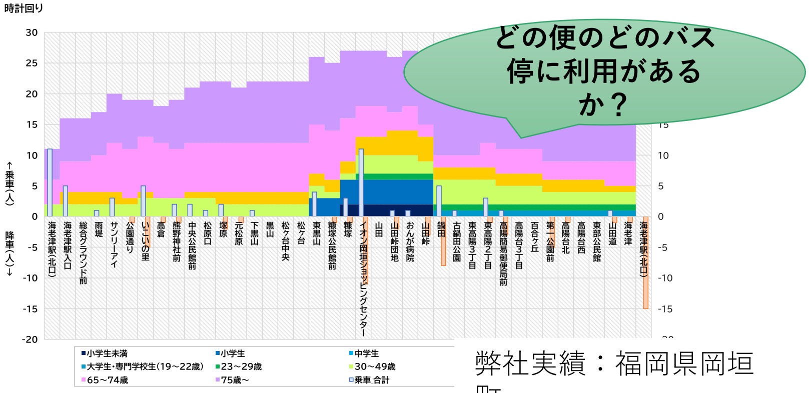
- バス会社提供のICカードデータを用いて**公共交通の乗降データを分析**する
- 上記に加え、GTFSデータより運行実績を把握。**乗降データと運行実績を組み合わせて**、乗り換え状況や「乗り継げない時間帯」「乗換時間が長い区間」「乗車率が低い区間」等、**課題になっている箇所を可視化**する

ICカードデータ集計例




弊社実績：大分市

利用区間・バス停別乗降者数

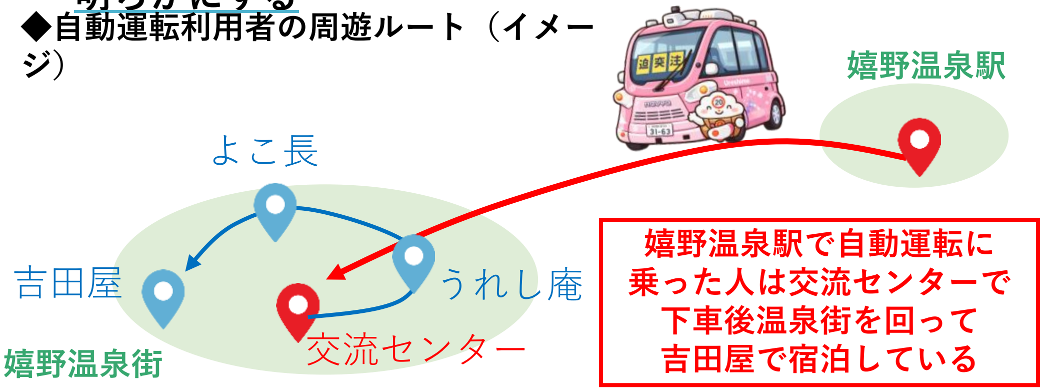



弊社実績：福岡県岡垣町

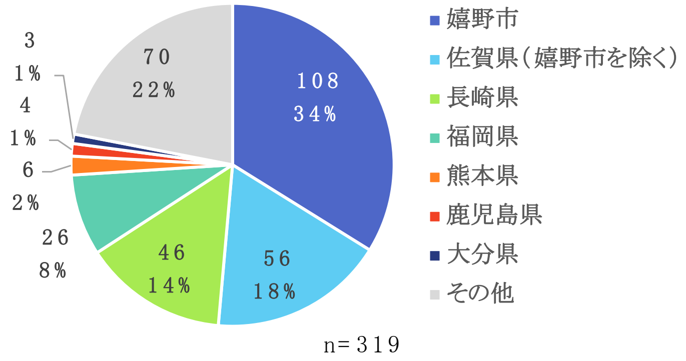
## ③自動運転乗降データから実証実験利用者の移動傾向把握

- 嬉野市未来技術地域実証事業において取得した**自動運転車両の乗降データ**に加え、嬉野温泉観光案内所公式LINEを活用して実施した**スタンプラリーの周遊データおよび属性データ**を用い、**自動運転の利用状況や周遊ルートの傾向を分析**
- 「どのような属性の人が実証実験を利用しているのか」「一方で、利用に至らなかった人はどのような層か」を整理・比較することで、**実証実験の受容性や利用実態を明らかにする**

**◆自動運転利用者の周遊ルート（イメージ）**




**◆2024年度自動運転利用者属性**



# 6 嬉野市の公共交通に関する実態、ニーズ把握調査（住民・観光客意見の把握）

## ①市民アンケートによる移動実態

- 嬉野市公式LINE及び市報でWEBアンケート調査を実施し、可能な限り細かい**地域単位での集計**や、**地域×年代でのクロス集計**により、**移動サービスに対する潜在的な利用意向や課題意識を分析**する

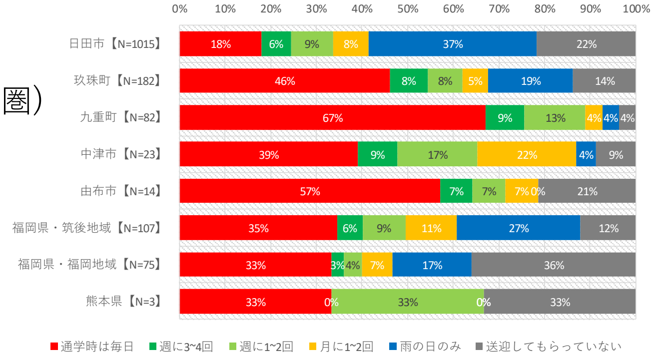
嬉野市LINE・市報からWEBアンケートを配信

◆WEBアンケート(弊社実績：中津市)公式LINE活用アンケートでは**後期高齢者の回答が全体の約1割を占め、分析に十分な回答数が得られた**

## ②高校生アンケートによる通学・休日の移動実態

- 嬉野市・武雄市・鹿島市の高校に通う学生に対し、**公共交通の利用状況や利用意向に加え、公共交通従事者のイメージや従事意向等把握し、公共交通の担い手確保にもつなげる**
- 高校を通じて**WEBアンケート調査**を実施する

◆ 高校生の送迎頻度
(弊社実績：大分県西部圏)




## ③公共交通利用者アンケート調査による公共交通の課題

- 乗合いタクシー利用者のみならず、**嬉野市内公共交通の利用者に対し、公共交通の課題を把握**するためにアンケート調査を実施する
- **交通事業者へポスター掲示の協力を依頼**し、利用者に対しWEBアンケート回答を促す

◆利用者アンケート回答依頼ポスター
(弊社実績：鹿児島県)

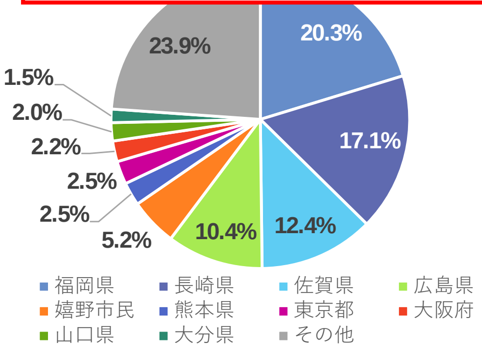
| 分類 | ポスター掲載依頼想定先 |
|---|---|
| 鉄道 | JR九州長崎支社へ駅等への掲示を依頼 |
| バス | 祐徳バス、JR九州バス、西肥バスへ車内への掲示を依頼 |
| タクシー | 温泉タクシー、再耕庵タクシーへ車内への掲示を依頼 |
| 乗り合いタクシー | |

# 6 嬉野市の公共交通に関する実態、ニーズ把握調査（住民・観光客意見の把握）

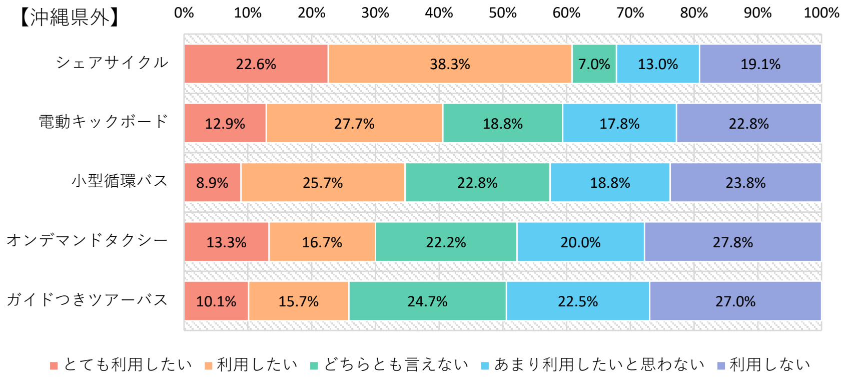
## ④観光客アンケートによる来訪者の移動傾向把握

- 旅館組合を通して**宿泊施設の個室やロビーへのQRコード設置を依頼**することに加え、**嬉野温泉観光案内所公式LINEからアンケートを配信**
- 嬉野来訪者の現在の移動手段や利用したい移動手段を把握し、**観光客目線での公共交通の課題を整理**

**お友達28,500人を超える（90％以上が嬉野市以外の居住者）LINEにてアンケート配信**



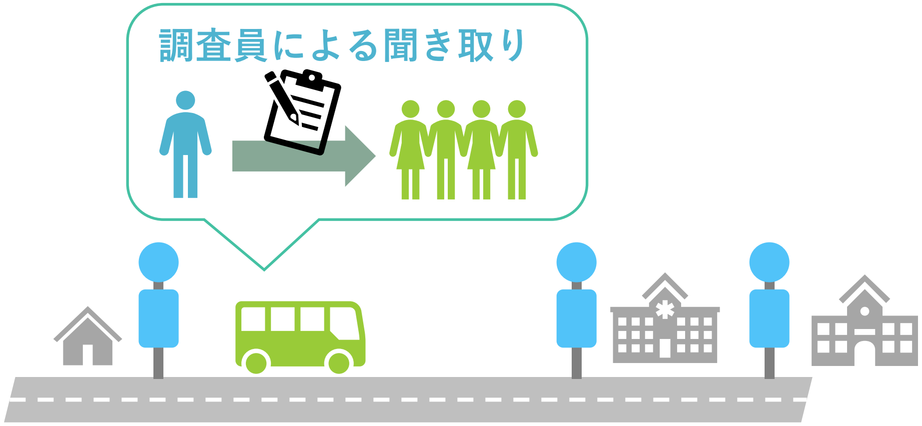

### ■来訪者が希望する移動手段（沖縄県うるま市）




## ⑤交通結節点利用者調査によりデータ分析を補完

- **人流データやICカードデータでは把握できない利用者の意識や実態を補完**することを目的として実施
- 通常期の利用状況を把握するため、高校の休暇期間や年金受給日等を避け、**平日・休日各1日に調査**を実施
- **嬉野温泉駅、嬉野IC、バスセンター**を対象に、乗降バス停、利用目的、利用頻度等を把握

### ■利用実態調査の方法と聞き取り内容




| 聞き取り項目 | 内容・目的 |
|---|---|
| 乗降バス停 | 利用者のＯＤの把握 |
| 利用目的 | 通学/買い物/通院/観光など |
| 目的地 | 目的地となる施設の名称 |
| 利用頻度 | 1週間の利用頻度の把握 |
| 二次交通の利用実態 | 交通結節点到着後の移動手段の把握 |
| 改善要望 | バスの改善に向けた要望の有無、内容 |

# 7 嬉野市の公共交通に関する実態、ニーズ把握調査（関係者意見の把握）

## ①交通事業者との協力関係構築に向けたヒアリング

- 路線バス事業者、乗合タクシー事業者、福祉バス運行事業者に対し、**車両・人員等の運行資源の状況やコミュニティ交通の運行受託の可能性**等についてヒアリング調査を実施
- 効率的かつ持続的な地域公共交通体系（路線バス、タクシーを含む）を構築するためには、それぞれが**極力競合せず、相互補完関係にある公共交通を目指していくことが必要**
- 地域の交通事業者を維持していく観点からも、**交通資源の状況を丁寧に把握し、合意形成の推進**を図る

### ◆ヒアリング対象

| 分類 | 依頼想定先 |
|---|---|
| 路線バス | 祐徳バス、JR九州バス、西肥バス |
| 乗合タクシー | 温泉タクシー、再耕庵タクシー |
| 福祉バス | 吉田地区地域コミュニティ運営協議会 |

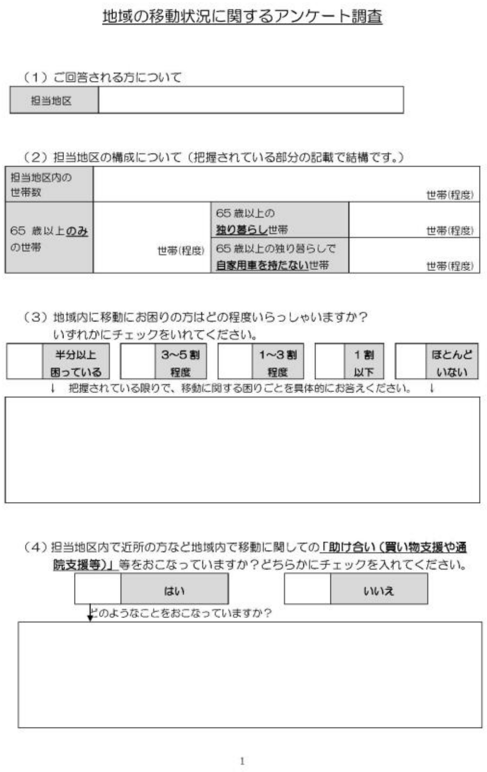
### ◆ヒアリング設問（案）

| 分類 | 設問（案） |
|---|---|
| 人的・その他リソース | ✓ 運転者や整備士などの現場に携わる従業員の現状と将来見通し<br>✓ 車両、整備施設等の償却資産の現状と将来見通し |
| 地域交通サービスの運営 | ✓ 現在の地域交通に対する補助制度の問題点<br>✓ 行政との関係構築に関する問題点<br>✓ 事業者間共創や連携に関する問題点<br>✓ 地域交通の運営体制のありかた |

## ②市内民生委員へのアンケート

- 交通分野単独では把握が難しい、**高齢者や要支援世帯を含む生活移動の実態を把握**することを目的として実施
- 高齢者等の交通弱者の方々の移動上の困難や助け合いの実態を整理することで、公共交通の見直しに加え、**福祉・地域支援と連携した移動施策を検討**

### ◆調査票例


地域の移動状況に関するアンケート調査

（1）ご回答される方について

| | |
|---|---|
| 担当地区 | |

（2）担当地区の構成について（把握されている部分の記載で結構です。）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当地区内の世帯数 | 世帯(程度) | | |
| 65 歳以上**のみ**の世帯 | 世帯(程度) | 65 歳以上の**独り暮らし**世帯 | 世帯(程度) |
| | | 65 歳以上の独り暮らしで**自家用車を持たない**世帯 | 世帯(程度) |

（3）地域内に移動にお困りの方はどの程度いらっしゃいますか？
いずれかにチェックをいれてください。

☐ 半分以上困っている　☐ 3～5 割程度　☐ 1～3 割程度　☐ 1 割以下　☐ ほとんどいない

↓ 把握されている限りで、移動に関する困りごとを具体的にお答えください。↓

（4）担当地区内で近所の方など地域内で移動に関しての**「助け合い（買い物支援や通院支援等）」**等をおこなっていますか？どちらかにチェックを入れてください。

☐ はい　☐ いいえ

どのようなことをおこなっていますか？

1

**調査項目（案）**

- 地区内情報（世帯数、高齢者のみ世帯数、高齢独居世帯数
- 地区内の「移動に困っている人」の規模感
- 主な移動手段・移動目的
- 地域内の助け合い・支援の実態と持続性
- 公共交通に関する地区としての課題認識

# 番外編　人流データとは

## ①人流データとは

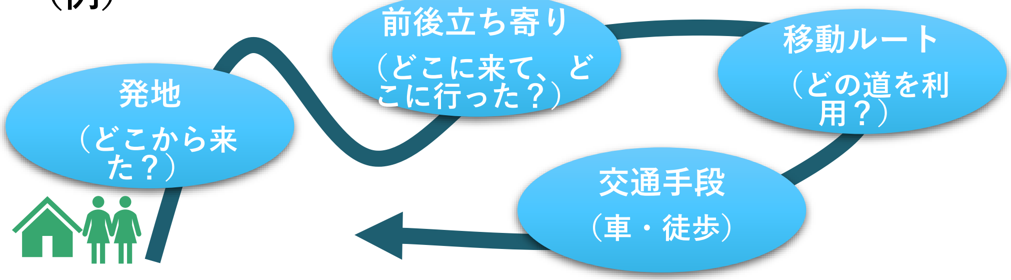
人流データとは、携帯電話の位置情報等をもとに、
人が「**どこから来て、どこに滞在し、**
**どこへ移動しているか**」を把握するデータ
※個人を特定するものではなく、
地域全体の移動傾向を把握するために活用する

**留意点**
人流データは、人の動きの傾向を把握するには有効な一方、「なぜその移動をしたのか」「なぜ公共交通を利用しなかったのか」までは把握できない
➡アンケート調査と組み合わせて、移動の理由や困りごとを補完

### 分析に用いる位置情報データ

| ツール | データ取得対象 | 強み |
|---|---|---|
| ODウォッチャー | 位置情報の利用に同意したスマートフォンアプリ利用者のGPS位置情報 | 発地・着地、移動手段、時間帯別の移動実態を把握 |
| KLA（KDDI Location Analyzer） | KDDIが保有するGPS位置情報・契約者属性情報 | 来訪者の属性、発地、宿泊地、前後の立ち寄りを把握 |

### 人流データで把握できること（例）




## ②人流データからわかること

**どこから来ているか**
：市内、周辺市町、県外などの発地

**どこに多く人が集まっているか**
：嬉野温泉駅、温泉街、嬉野IC、バスセンター周辺など

**どの時間帯に移動・滞在が多いか**
：午前・午後・夕方、平日・休日の違い

**来訪前後にどこへ立ち寄っているか**
：嬉野温泉駅に来た人が、前後に長崎市・佐賀市等へ立ち寄っているか

**宿泊・日帰りの傾向**
：宿泊者がどこに泊まっているか、日帰りが多いか

### 人流データ分析（例）■前後立ち寄り分析（嬉野温泉駅）